

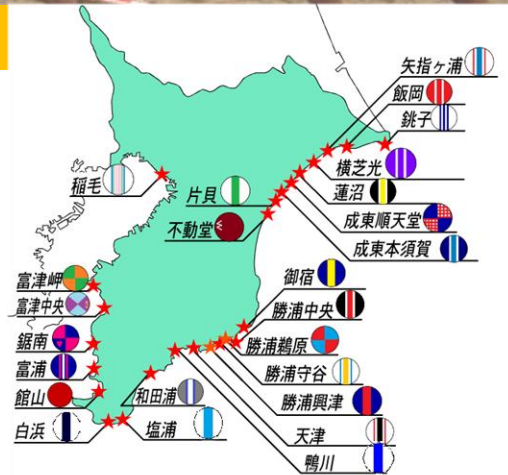
千葉県ライフセービング競技大会～BOSO CUP～

このイベントは、水辺の事故防止と安全思想の普及を目的として千葉県内の海水浴場を中心に活動するライフセーバーが集い日ごろより行っている救助技術のトレーニングの成果を競うライフセービングの競技会です。救助技術の向上、事故防止のための啓蒙活動、子供たちへ安全思想・などの普及、海辺での環境活動等、多くの人にライフセービングについてより広く認知・理解してもらうため平成15年より、毎年行われています。



参加団体

約25チーム、350名のライフセーバーが本大会に出場します。夏の監視活動期間中は千葉県の各市町村の海水浴場で活動しているライフセーバー同士が互いに競技で切磋琢磨し、日頃のトレーニングの成果を発揮し合いながら、救助力の向上と交流を深めています。



競技説明

●サーフレース



120メートル沖にある9つのブイを泳いで回る

ライフセービングの基礎的なトレーニングのひとつにもなっているサーフレース。溺者に最も近い位置まで走り、泳いでレスキューをし、溺者を引き上げるというレスキューの基本動作を競技にしたものです。

●ビーチ駅伝



砂浜を一人が2kmを走り、4人でタスキをつなぐ

ライフセーバーのメインの活動場所となる海岸の砂浜ですが、砂の上を走るのは通常の地面を走るより負担は大きくなります。一人一人の思いをのせたタスキをつなぎ、ゴールを目指します。

●CPR(心肺蘇生法)コンテスト



2人1組で心肺蘇生訓練人形を使い人工呼吸と胸骨圧迫を行い、どれだけ正確にできたかを審査する

ライフセーバーは走って泳ぐだけではなく、CPRの技術を身につけることも重要です。実際の現場では1時間以上もCPRを続けることもあり、CPRの実施には体力も必要です。また、呼吸や脈の停止した溺者には救助後継続してCPRを実施することもあります。

●パドルボードレース



パドルボードで250メートル沖の3つのブイを回って帰る

レースではパドルの速さだけではなく、波のサイズや風の強さも非常に影響を受けます。実際の救助では、ドルボードのスピードも重要な要素となってくるので、ライフセーバーにとってこのパドルボードのトレーニングは欠かせません。3人1組でのボードリレーも行われます。

●オーシャンリレー



スイム、パドルボード、サーフスキーを6人の選手がリレーする

オーシャンマン・オーシャンウーマンリレーを变形した房総カップの特別レースです。スイム、ボード、サーフスキー、ランの計6名でリレーします。チームの総合力を競います。

●ビーチフラッグス



海岸で後ろ向きにうつ伏せになり、20メートル離れた地点に競技者より少なく置かれたバトン(ホースチューブ)を取り合う最近ではお馴染みとなったビーチフラッグス。おそらくライフセービング競技の中で最も知名度のある競技でしょう。